

令和4年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

1 開催日時

令和4年7月13日（水） 午前10時00分～午前11時24分

2 開催場所

花巻市高松第1地割1-1 宮沢賢治イーハトーブ館 講義室

3 出席者

(1) 委員7名

瀬川卓哉委員（宮沢賢治・花巻市民の会会員）、高橋俊吉委員（早池峰賢治の会事務局）、熊谷善志委員（石鳥谷賢治の会会長）、小原節子委員（宮沢賢治・東和の会会長）、堀合範子委員（花巻ユネスコ協会事務局長）中島健次委員（矢沢地域振興会会長）、多田章委員（矢沢地域振興会理事）

(2) 事務局（宮沢賢治記念館）3名

清水館長、佐々木副館長、宮澤上席主査

4 議題

(1) 会長の互選及び職代理者の指名

(1) 令和3年度事業報告について

(2) 令和4年度事業計画について

5 会議録

佐々木副館長：それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

本日は、委員7名全員出席いただいておりますので、宮沢賢治記念館管理運営規則第9条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますことから、会議が成立することをご報告いたします。

ただ今から宮沢賢治記念館運営審議会を開会いたします。

開会にあたりまして、清水館長よりご挨拶を申し上げます。

清水館長：本日は、市議会臨時議会が招集されました関係で、生涯学習部長が本席に出席できませんでしたので、部長に代わりましてご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。皆様には、これから2年、宮沢賢治記念館運営審議会委員として、当館の運営について様々ご意見をいただきますとともに、併せてご支援を賜りますようお願いいたします。本年度もコロナの影響で、入館者数が少ない状況が続いておりますが、この4月から6月までの状況を見ますと、入館者数は約2万9百人で、昨年度と比較いたしますと、1万人ほど増加している状況でございます。現在、第7波というふうにいわれておりますけれども、今後のコロナの状況次第で入館者数も増減していくものと思っております。さて、令和4年度は、昭和57年9月に当館が開館して40周年という節目の年でございます。この開館40周年を記念いたしまして、「雨ニモマケズ」手帳の実物を宮澤家からお借りいたしまして展示公開し、併せて宮澤和樹様の記念講演を行いまして、多くの賢治ファンに喜んでいただこうというふうに企画しております。また、賢治の妹トシさん没後百年ということで、今月23日から開催いたします特別展「心象スケッチ春と修羅」の中でそのことをご紹介させていただくこととしておりますので、ご期待いただければと存じます。本日

は、令和3年度の事業報告及び令和4年度の事業計画についてご審議をいただきますけれども、委員の皆様からご意見、ご助言をいただきますことをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

佐々木副館長：それでは、本運営審議会が会長が議長を務めることとされておりますが、改選後、最初の運営審議会でございますので、会長が決まるまでの間、清水館長が議長を務めさせていただきますことをご了承願います。

清水館長：それでは暫時、議長を務めさせていただきます。

宮沢賢治記念館管理運営規則第8条第1項に、委員の互選により会長を定めると規定されております。どのような方法で会長を選出したらよろしいでしょうか、お諮りいたします。

（「事務局案」との声あり）

清水館長：はい、承知いたしました。事務局案というご提案でございました。よろしゅうございますでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

清水館長：それでは、事務局案をお願いいたします。

佐々木副館長：はい。事務局といたしましては、会長に中島健次委員を提案させていただきます。

清水館長：はい。お諮りいたします。中島健次委員を会長とすることにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

清水館長：はい。それでは、中島健次委員を会長とすることに決定いたしました。

それでは、議長を中島健次会長と交代いたします。

中島会長：ただ今、会長に推薦をいただきました中島と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。私自身、ちょっと長くなったのかなという思いはございますが、ご推薦なのできちんと務めていきたいと思っておりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げたいというふうに思います。

それでは、職務代理者の指名ということで、宮沢賢治記念館管理運営規則第8条第3項に、会長に事故があるとき、または欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理するという規定がありますので、私から職務代理者を指名いたします。宮沢賢治東和の会会長の小原節子委員を指名いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。進行させていただきます。初めに令和3年度事業報告について、説明をお願いいたします。

宮澤上席主査：それでは、令和3年度事業報告についてご説明いたします。資料の方は1ページをご覧ください。皆様には、あらかじめ資料をお渡ししておりましたので、要点を絞ってご説明させていただきます。

初めに、1入館状況と対応についての(1)入館者の状況についてですが、資料の表にありますとおり、令和3年度の入館者数は前年度比12.1パーセント減の47,349人でした。コロナの影響を受けた格好になるわけですが、一方で修学旅行など教育旅行での来館者数は前年度比7.2パーセント増の12,239人となりました。次に(2)対応の状況の①開館日等の状況についてですが、コロナの感染拡大防止のために、繁忙期に当たります8月14日から9月24日までの42日間にわたって臨時休館となりました。このため、②繁忙期の対応にもありますとおり、例年、ゴールデンウィークや夏休み期間のほか賢治さんの命日にあたる9月21日前後に行っておりましたシャトルバスの運行、それから交通整理を行う警備員の配置は、ゴールデンウィー

クと夏休み期間の前半のみとなりました。こちらに関しましては、別資料の別紙1にまとめておりますので、後程ご覧ください。③解説案内、レファレンスの対応につきましても、資料記載のとおりでございます。

資料2ページをご覧ください。2 主要事業、賢治のまちづくり推進事業についてでございます。初めに(1) 特別展の開催ですが、賢治さんが羅須地人協会の講義用に作図した教材絵図49枚を3期に分けて公開するというものでございました。3期それぞれの企画内容や開催期間、実物資料公開期間中の入館者数などにつきましては、資料記載のとおりでございます。資料の3ページをご覧ください。(2)「賢治の世界」セミナー、ワークショップ等の開催についてです。こちらに関しましては、別資料の別紙2も合わせてご覧いただきますようお願いいたします。①「賢治の世界」セミナー、出前講座につきましては、6月から11月にかけて市内小中学校や花巻農業高校など17校で合計18回開催いたしました。②「賢治の世界」ワークショップ、③ギャラリートークの開催、4ページ目、3 各種行事の開催につきましては、いずれもコロナの影響により、予定の一部あるいはすべてを中止とせざるを得ない状況でございました。4 記念館年報、記念館通信等の発行につきましては、記載のとおりでございます。5の環境の整備についてでございます。初めに(1) 主な施設整備についてですが、上から3点目の館内エアコン更新2台につきましては、更新個所がサロンスペースと常設展示室内ということで、来館者の安全確保を図る必要がありましたことから、閑散期に当たる12月1日から3日までの臨時休館として実施したものでございます。次に(2) 周辺環境の整備につきましては、「企業の森活動」として日東工業株式会社花巻営業所の皆様に草刈り作業を2回行っていただきましたほか、花巻農業高等学校 PTA 様より提供していただきましたプランターの花を6月から9月の期間に、10月には菊花愛好家の方々より提供いただいた菊の鉢を通路に設置させていただきましたことを併せてご報告いたします。(3) 宮沢賢治記念館所蔵資料直筆稿の修繕につきましては、ご覧の98枚の直筆原稿の修繕を行いました。資料の方でも補足しておりますが、「十力の金剛石」の修繕につきましては、県内の団体からの寄附金が充てられております。最後に(4) その他といたしまして、3月から館内の撮影が一部を除いてではありますが、可能となりましたことをご報告いたします。事業報告につきましては、以上でございます。よろしく願いいたします。

中島会長：ただ今、説明のありました事業報告について、皆さんからご質問、ご意見等お願いしたいというふうに思います。

瀬川委員：何点かあるんですけれども、(2) 対応の状況の③解説案内、レファレンスの対応のところ、修学旅行等の団体入館者を中心に観光ボランティアガイドが館内解説や案内等に対応するというふうにあるんですけれども、今、この観光ボランティアガイドさんというのは何人ぐらいいらっしゃるんですか。

清水館長：10人前後いらっしゃると思っております。

瀬川委員：それは、常にスタンバイできているんですか。

清水館長：あくまでもガイドが欲しいという団体、あるいは個人の集合体でもいいんですけれども、花巻観光協会さんの方に電話していただいて、そこから派遣していただくという形になっていますので、当館を通さずに直接やり取りしていただくシステムになっています。

瀬川委員：ということは、申し込みは賢治記念館の方に直接申し込むんじゃなくて、観光協会の方に申し込む形なんですね。

清水館長：はい、そのようにご案内しております。

瀬川委員：それは、各団体ともその旨承知されているわけですね。

清水館長：記念館の方にガイドが欲しいですという話をされたときに、こちらの方からは観光協会さんの連絡先をお知らせして、直接お申し込みをお願いするという形をとっておりました。

瀬川委員：そうすると、観光協会の方の管轄になるかもしれませんが、ボランティアさんというのは高齢化もされているんじゃないかなというふうに思うんですが、育成などは考えているんでしょうか。

清水館長：観光協会さんの事業でございまして、私どもの方で関わっていないので、詳しい状況は承知しておりません。

瀬川委員：というのは以前、スタンバイしていたというような話を聞いたことがあるんですけども。宮沢賢治花巻市民の会に所属してるメンバーの中で、何名かはボランティアとして賢治記念館でスタンバイしていたみたいなのがあって、その方たちもちょっと高齢化しているので、やっぱり修学旅行生なんかでガイドが必要なとき、あるいは修学旅行じゃないにしてもガイドが必要なときに直ぐに対応できるようにスタンバイしていたということだったんですけども、そういう状況ではないわけですね。そうすると、知らない人で行ってみて、ちょっとガイドを受けたいなと思われる方もいるんじゃないかなと思うんですけども、そういう方に対する対応はその時点では、リアルタイムでは受けれないという形になるわけですか。例えば、修学旅行の場合は来館が事前に分かっていると思うんですけども、修学旅行向けの説明プログラムみたいなものは館の中にあるんですか。

清水館長：ガイドさんが説明することは、ガイドさん自身がやってらっしゃるので、こちらはその説明内容やマニュアルがあるかどうかは承知しておりません。

瀬川委員：そうすると、ボランティアガイドを申し込まない場合は、各学校が任意に見て回るような形になるんですか。

清水館長：そうですね。基本は自由見学ということになります。

瀬川委員：というのは、初心者には今現在、非常にわかりにくいという意見がありまして、中級者、上級者は結構長い時間滞在して館内でいろいろ勉強していかれるようなんですけども、初心者の場合は非常に何かとつつきにくいような部分もあるというふうなお話も聞こえるんですね。修学旅行なんかの場合は、ほとんど初心者といってもいいと思いますから、そういったボランティアガイドを入れずとも、館内の修学旅行向けのプログラムみたいなものがあつた方がいいんじゃないかというような意見を承ってきました。

清水館長：ご意見ありがとうございます。修学旅行の場合、たまたま来てずらっと見るのではなくて、前もって準備してこういうところを調べようということでノートを持参して見学するケースがほとんどです。また、修学旅行は初めからルートに入っているわけですから、ガイドさんが必要な場合は旅行代理店の方で確実にガイドさんを頼んでいます。それから、館内に賢治に関するクイズ的なワークシートを準備しておりまして、館内の展示を見れば解答できるような、初級、中級、上級に分けています。ワークシートが欲しいという学校にはお配りして、館内の展示物にあるヒントを探して解答し、答え合わせをするというようなやり方をしている学校もありますので、修学旅行についてはただずらっと見るようなことはないんだろうと思っております。

瀬川委員：その賢治のワークシートというのはいつぐらいから設置されているんですか。

宮澤上席主査：一昨年からです。

瀬川委員：一般の方に対してのそういった部分というのはどうなんでしょうか。やっぱり花巻に来たら賢治記念館にも来ると思うんですけども、何となくわかりにくいなという話も耳にしたりするので、そういった人たち向けのシートみたいなものとかも常備されているのかということはどうですか。

清水館長：そういうものはないんですけども、あくまでもボランティアのガイドさんなので、何時間もずっと拘束されて、出番があるかないかもわからないけれども、待機しててくださいというのは、こちらでは頼めないというのが実情です。

小原委員：すみません、ちょっといいですか。今の瀬川さんの話ですが、ぶらっと来た方たちがちょっとこれこれ聞きたいというときは、学芸員さんが対応してくださるんでしょう。

宮澤上席主査：もちろん、対応しております。

小原委員：美術館でも何でも必ずいるはずですから。ちょっと私事をいうと、賢治東和の会で20日に宮沢賢治の歩いたゆかりの地を、今回盛岡を歩くんですけど、報恩寺さんとかお寺を回ることになっています。そのときに私たち企画者は、やっぱり誰か詳しい人にガイドしてもらおうと思って、森三紗さんを頼みました。あとは岩手大学の資料館ということで、岩手大学に問い合わせをしたら、説明者はいませんと言われて、森三紗さんに連絡しましたらやっしてくださるということで、ガイドを頼んでマイクロバスに乗っていただきます。先ほど館長がおっしゃったように、修学旅行で行くとなったときは全部そちら側でちゃんと考えて用意していらっしゃると思いますね。ただ、ぶらっと来た旅行者には学芸員が対応している、常時どなたかいらっしゃると思いますよね。

宮澤上席主査：質問等があるお客様もいらっしゃるのですが、そういった方々には対応はしております。

瀬川委員：前回だったか前々回だったかの運営審議会のときに、「賢治の世界」セミナーについてなんですが、小中学校は全部の学校が網羅されていると思うんですが、高校はどういうわけか農学校しかなくて、ほかの市内の高校を対象にしたセミナーという考えはまだないんでしょうか。

清水館長：令和4年度の事業になりますけども、資料の別紙3「賢治の世界」セミナー、出前講座実施予定をご覧いただきたいのですが、今年度の「賢治の世界」セミナーは6月までの分は既に終わっていますし、7月以降のこれからの予定を記載しておりますが、4番目に大迫高校さんがありまして、今年は花農さんと大迫高校さんで実施いたします。ほかの北高、東高、南校、花北青雲さんにも声はおかけしたんですが、高校は授業の関係もあってなかなか難しいようです。今までは花農さんにしかお声がけしていなかったんですが、令和4年度からは市内の全高校にお声がけはして、大迫高校さんが新規に手を挙げていただいたということでございました。

瀬川委員：あとの高校からは手が挙がってこなかったということなんですね。わかりました。

小原委員：修繕のところで、寄附金をある団体から10万円いただいたということですが、公表しないでくれと言われていたんですか。寄附してくださった団体はわかりませんか。

清水館長：公表しない方がいいのかなと思います。

瀬川委員：直筆原稿の修復なんですけれども、これはずっと継続しているものだと思うんですが、大体のところいいんですけども、今後どのくらい修復する原稿が控えていて、今、修復済が何パーセントくらい進んでいるのか知りたいなと思うんですが。

清水館長：今、当館で所蔵している直筆原稿が約 3,500 枚ほどございまして、そのうち終わっていますのが 460 枚ぐらいということで、あと 3 千枚ちょっと残っているような状況です。先ほど話題になりました寄附金ですが、昨年は 10 万円でしたが、今年、これは県外の個人の方からなんです、500 万円の寄附をいただいております。このような寄附があれば予定より早く修復が進みますけれども、平年であれば年間 100 万円から 150 万円の間ぐらいの予算でやっていますので、これからまだ 10 年、20 年という期間がかかるのかなというふうには思っています。

瀬川委員：基本的には、修復されたものを公開するんですよね。

清水館長：そうですね。公開することを前提に修復の順番も考えております。修復が終了して公開する場合は、外に出していると劣化が進むので、10 日ぐらいを目途に公開しております。

中島会長：そのほかございませんでしょうか。それでは、令和 3 年度事業報告については、原案のとおり承認することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

中島会長：はい。異議なしということで、原案のとおり承認することといたします。

それでは、次に令和 4 年度事業計画について説明をお願いいたします。

宮澤上席主査：それでは、令和 4 年度事業計画についてご説明いたします。資料は 5 ページでございます。初めに、1 主要事業、賢治のまちづくり推進事業の（1）特別展の開催については、資料にあります 3 つを予定しております。現在は、「童話 ツェねずみ」を開催中です。（2）「賢治の世界」セミナーにつきましては、資料の別紙 3 をご覧くださいませようお願いいたします。全部で 18 回開催の予定ですが、本日まで 6 回が実施されております。また、本年度は花巻農業高校のほかに大迫高校でも実施しておりますことを申し添えます。資料は 5 ページに戻っていただきたいと思っております。（3）「賢治の世界」ワークショップについては、5 回開催の予定です。来る 7 月 30 日土曜日には、「賢治ゆかりの六原、金ヶ崎町を訪ねて」として、賢治さんが花巻農学校の教師だった時代に、生徒とともに遠足で訪れ、のちの詩や童話で作品化されたゆかりの地である六原、具体的には軍馬の郷六原資料館や県立花きセンターを巡るという企画を開催いたします。定員を 15 名としており、申し込み開始日を 7 月 18 日として市広報などで周知を図っているところです。残る回につきましても、適時情報発信等を行いながら実施してまいります。（4）ギャラリートークにつきましては、10 月と 11 月に学芸員によるギャラリートークを開催したいと考えております。こちら詳細が定まりましたら、適時情報発信等に努めてまいります。資料 6 ページをご覧ください。2 各種行事等 でございます。初めに、（1）開館記念行事につきましては、記念館の開館日である 9 月 21 日に実施予定で、内容は検討中と記載しておりますが、胡四王神楽保存会の皆様に依頼中でございます。こちら詳細が定まりましたら、適時情報発信等に努めてまいります。また、（2）特別企画「雨ニモマケズ」手帳公開を 9 月 16 日から 25 日までの 10 日間にわたって行う予定です。期間中の 9 月 19 日には特別展示室にて、宮澤和樹さんによる記念講演を開催いたします。資料の方には 20 日となっておりますが、19 日の月曜日、祝日ですので、訂正をさせていただきます。3 記念館年報、記念館通信等の発行につきましては、記載のとおりでございます。次に、4 環境の整備でございます。初めに、（1）主な施設整備といたしまして、ご覧の 7 件を予定しております。エアコンですとか、常設展示室のプロジェクターなどの更新には、来館者の安全性を確保する必要がありますことから、12 月 7 日の水曜日から 9 日の金曜日までの 3 日間を臨時休館とし実施する予定でございます。近くなりましたら各種情報ツールを活用して情報発信

をしてまいります。最後に（2）周辺環境の維持管理でございます。例年のとおり、市道宮沢賢治記念館線及び南斜花壇周辺の草刈り、植栽管理のほか賢治ゆかりのバラの花壇の管理を実施してまいります。私からの説明は以上でございます。よろしく願いたします。

中島会長：はい。それでは、ただ今説明がありました令和4年度事業計画について、皆さんからご意見、あるいはご要望、ご質問がございましたら願いたします。

瀬川委員：令和4年度というのは開館40周年なんですね。そのことを知らない人が結構いると思うので、もっと告知した方がいいんじゃないかなということと、多分、賢治さん没後90年になるんじゃないですか。

清水館長：それは令和5年度になります。

瀬川委員：それは一応、そういうのはあるわけですね。今、40年になるんだというのを聞いて、全国の賢治ファンに発信して、告知した方がいいんじゃないかなというふうに思いました。

清水館長：ありがとうございます。今日、お渡ししているこの冊子、JRさんで作っているものなんですけれども、これの6ページに今、宮澤が申し上げた「雨ニモマケズ」手帳の実物公開について紹介されております。JRさんのイベント絡みにはなりますが、当館とすればこれが40周年記念事業と位置付けてやるものになります。それから、現在作成中ですが、横断幕を拵えて記念館の前のところに張って、PRすることも考えておりました。

中島会長：今年40周年ということだが、この事業計画には特出しにはなっていないね。事業計画を見れば、割とこじんまりとやるのかなという思いもあるんですが、特に大掛かりに全国へ発信、あるいは県内に発信して40周年記念ということについては考えていないということですか。

清水館長：そうですね。賢治さんの生誕とか没何年とか、先ほど申し上げましたが、来年は没後90年なるんですけれども、そういうのは大々的にやろうと思いましたが、開館40周年はそんなに大きくやらなくてもいいのかなという考えではありました。

中島会長：黙っていてもお客さんが来る記念館だとは思いますが。40周年とただただで中身が伴わないとね。折角ですから、ノボリでもいいし横断幕でもいいし、集客につながるような何かがあればいいのかなと思います。因みに、30周年のときは何をやったんですか。

清水館長：文化会館を会場に音楽イベントをやったようです。ただ、今のご時世では大きい会場に大勢の人を集めてというやり方はどうかなというのがあります。

堀合委員：先ほど、宮澤さんから情報発信をこれからしていきますという話がありましたが、ここ1年ぐらいで新聞にも何回か賢治記念館のことが載ったりして、私の意識が今までなかったのかどうか分かりませんが、そういった周知が結構増えてきているなと思って、大変いいことだなと思っております。それから、賢治の手帳についても確かテレビでも取り上げられて、岩手県の観光とそこのところに賢治の手帳が話題としてテレビにも出て、すごいなと思って、大変市民としてうれしいなという気がしておりました。それから、記念館通信についても、こまめに色々ここにいらした方とか、講演会とか出していただいて、それも賢治記念館の周知になっていて、とてもいいことだなと読ませていただいております。本当にありがとうございます。それから、先ほどちょっと聞きそびれましたが、去年は修学旅行生がコロナ禍にもかかわらず増えたということで、大変いいことだなと思っておりますが、市内の小中学校で授業の一環として訪れたということはあったんでしょうか。

清水館長：今年も1校は来ていますし、去年も小学校、中学校合わせて十数校来てい

ます。毎年、同じ学校の同じ学年の児童生徒さんが来るというのが多いと思います。

堀合委員：うれしいことですね。教科書にも作品が載ったりしていますからね。もう一つ、先ほど瀬川さんの話を聞いてちょっと思ったんですが、館内のボランティアの件で、ふっと来た個人が説明を聞けるようなことがあればなあという話で、そういう場合は学芸員さんが対応するということでしたが、学芸員さんには学芸員さんの専門的なお仕事もきつとっぱいあるだろうと思います。私、かつて是川の縄文博物館に何人かで行ったときに、入りましたらすっと男の人が寄ってきてまして、館内をご案内しますかと言われたことがあるんです。それで、私はうれしくて、お願いしますと言ったら、ずっと案内してくださって、大変ありがとうございますと言ったら、いえいえと言って、すっと去って行ったんです。何が言いたいかと言いますと、そういう市民のボランティアが館を支援しているというのが大変素晴らしいし、先ほどボランティアが花壇の整備をやられているという話を聞きましたが、賢治記念館だけが対応するんじゃないかと、そういった支援を私たち市民として考えなきゃいけないかなと思いました。誰でもやっていいことではないと思いますが、そういう観光協会さんのボランティアに志願をして、交代でもいいですし、都合のつくときに賢治記念館の了解を得て、説明内容も見ていただいたりして、そういうふうな支援体制が市民としてあればいいのかなという気持ちでした。

中島会長：大変示唆のあるお話でした。私も昔、関わったことがあるんです。観光ボランティアというのは結構難しいんです。というのは、広範囲にわたる部分、それから宮沢賢治さんに特化した部分、そうなるとなかなかボランティアさんの人材に限られる。今、おっしゃったように育てるのか、観光協会か教育委員会か当館がやるのかどこがやるかは別にして、意外と来る人の方が詳しくったりして、そのへんのバランスが難しいんですね。なかなか難しいですが、育てる組織が必要だろうと思います。ただ、ボランティアですから、常時というわけにはいかないし、やっぱり今時点では、さっき言った学芸員さんが、忙しいとは思いますが、そういうふうな対応をお願いしたと思います。

小原委員：学芸員さんは何人いらっしゃるんですか。

清水館長：3人おりますが、説明に対応できるのは2人です。

小原委員：萬鉄五郎記念美術館は、監視ボランティアというのを募集するんですが、コロナでここ2年間なかったんですけども、土日だけ監視ボランティアを募集しますというのがくるんですけど、午前と午後に分けていいところに丸を付けて、ここ何十年か東和町の中だけではないと思います、もしかしたら盛岡の方なんかもいらっしゃると思うんですけど、そういう形をとってますね。私なんかはそれが楽しみで、宮沢賢治記念館まではなかなか行きたくても行けないんですけども、監視ボランティアがあるといくつか丸を付けてみるんです。もう少し地元で声をかけてみて、案外したいと思っている人も結構いると思うんです。ただ、会長がおっしゃったように大変な部分もあるんでしょうね。おもてなしの心が、ちょっと花巻ではないのね、何となくみんな殿様商売って言うんじゃないけれど。

中島会長：よそから来る人は、花巻市民は宮沢賢治のことを大概よく知っているだろうという思いで来たりしているんです。軽い質問でも、いや私よくわかりませんと答えていることが以前はあったんです。聞く度合い、内容によりますけれども、必ずしも地元が、受入れ態勢の人たちが知っているかといえば、時間がかかるとは思いますけれども、そこらへんをもうちょっと啓蒙する必要はあるんで、単なる観光施設として考えるんじゃないかと、われわれ市民もということは当然求められるとは思いますが。

堀合委員：今も観光協会さんの、賢治記念館とか光太郎記念館とかを巡るバスが前はあったように思いますが、今もやっているのでしょうか。

清水館長：はい、ございます。どんぐりとやまねこ号というもので、ボンネットタイプのタクシーで運行しております。

堀合委員：あれはとてもいいなと思っておりました。新幹線のところに停まって、花巻駅を出発して乗せて一周して、神楽もあったりするようでしたけれども。

中島会長：その他にまだ入りませんが、せっかくの機会ですから、あとで皆さんのそれぞれの団体の活動とかをお話をさせていただきますので、心の準備をお願いします。それでは、そのほかに事業計画についてございますか。

瀬川委員：計画と報告の両方にありますが、南斜花壇の草刈りを日東工業さんとかボランティアとかを含めて整備していただいているということなんですけれども、この胡四王山はよそから来る人にとっても環境のいいエリアだと思うんです。その中にある賢治記念館とイーハトーブ館、南斜花壇、そして道路を挟みますけれども童話村、そのへんをもうちょっと連動させるような企画、もっとこのエリアで時間を過ごしてもらうために、何かそういう胡四王山の散策も含めて、繋ぐような企画っていうものは、賢治記念館だけでは難しいのかもしれないけれども、何かそういうモデル的な、お互いに連動し合うみたいなことがあると更にいいんじゃないかなというふうに思うんですけれども、ちょっとそういったことも検討してもらうわけにはいかないのでしょうか。

清水館長：はい、ありがとうございます。今、連動してやっている企画というのはないんですけれども、イーハトーブ館は無料の施設ですが、童話村と当館と博物館、花巻新渡戸記念館については、共通券というチケットを販売して単独で買うより安くなるような形にしています。あとは、事業報告にもございましたけれども、ゴールデンウィークや夏休みの期間にはシャトルバスを運行して三つの施設に行ってくださいというような誘導策をしております。瀬川委員がおっしゃる連動した企画というのは、なかなか難しいところもあるんですけれども、できることがあるかどうか検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

瀬川委員：四六時中でなくてもいいと思うんですけれども、館内のBGMと言うんですか、宮沢賢治という人は、すごく音楽に関心があって、クラシックとかいろいろ聞いていて、あとは自分でも楽器をやっていたくらいですから、BGMをかけて耳から入ってくるものがあるかもしれないかという気もしたりするんですが、そういったものというのは時間帯にもよると思うんですが、検討してもらいたいと思うんですが。

清水館長：常設展示室では星めぐりの歌とかをずっと流してはいるんですけれども、ほかでもサロンでは銀河鉄道の夜をモチーフにした紹介ビデオを流していますし、多目的室では賢治さんの足跡を紹介するビデオを流しております、どこでできるか検討させていただきたいと思います。

堀合委員：なかなかBGMを流すのは難しいような気もいたします。静かに読んで鑑賞したいというか、そういう人も中にはいるだろうと思いますし、そういう曲の選定というか、いろんな人たちがいると思いますので、大変難しいことだなと思って聞いておりました。

中島会長：検討していただいて、時間帯とか曲目とか、あるいは何でそれがという部分を含めて、提案ですので、よろしく願いいたします。

多田委員：先ほどお話がありましたけれども、北東北3県の観光キャンペーンということで紹介がありましたけれども、ここに宮沢賢治の手帳の実物公開ということで、

大変いいことだと思いますし、前に新聞にも大きく載っていましたから、非常にPR効果があるなど、大変良かったなと思っております。それから、今もお話がありましたけれども、賢治サロンというところですか、喫茶コーナーみたいなところですね、ちょっとBGMに関連するかもしれませんが、ピアノがあそこになかったのでしょうか、ピアノありますよね。9月21日は開館記念行事ということで毎年、コンサートとかをやっていると聞いたことがありますけれども、例えばあそのピアノでミニコンサートでもいいんですけれども、そういうことができないかなと思ったりもしていますが。ちょっと話が飛躍するかもしれませんが。やっぱり静かに過ごしたい人もいるというお話もありましたけど、全くそのとおりだと思うんですけれども、何かちょっと変化が欲しいなど、あってもいいかなと、あまり館の運営に影響が出ないくらいでいいんですが、何かプラスできないかなと、具体的には何も言えないんですけれども、ちょっと思ったところでした。これはちょっと馴染まない話かもしれませんが、飛躍すれば、最近ではよく駅にピアノとか、ユーチューブとかで見かけるんですけれども、ピアノがあるんですから、どうぞ自由に弾いてくださいとか、そういうものには馴染まないかもしれませんが、ふと思ったところだったんです。それから、先ほどのレファレンスとか、ずっと寄ってきて説明しますかというのはいすごくいいことだと思いますし、関連して行政関係で施設を見学に来る方といいますか、同様の館の方の視察研修とかそういうものの対応はありますか。

宮澤上席主査：ここ2、3年はコロナの関係でないんですけれど、行政視察はあります。そのときには、学芸員が対応しておりました。

多田委員：そのときに、賢治記念館で参考になるようなお話とかが聞けたりはすることはないんですか。逆にこちらから同じような館に行って、何か勉強してくるとか、そういうようなことはやっているんですか。

宮澤上席主査：特にはないです。

清水館長：ピアノは今、多目的室に置いておまして、調律は毎年やっていますので、いつでも使える状態にはしております。ピアノを使った企画も考えられるかなと思います。

多田委員：利用する頻度というのはあまりないんですか。

清水館長：前には、ピアノとバイオリンやセロでのコンサートをしたようなんですけれども、ピアノは企画次第です。今年度はもう企画ができておりますから、来年度以降に企画できればやっていけるかなと思います。なかなかストリートピアノみたいに、ご自由にどうぞというのはちょっと難しいと思いますけれども。

宮澤上席主査：平成30年度に「セロ弾きのゴーシュ」の特別展をやったんですけれども、内容が音楽の関係なので、そのときにはピアノであったりとか弦楽器を使って開催記念行事みたいなことはやったことがありますので、常に楽器はメンテナンスをして使えるようにはしている状況ですので、そのときの企画に合わせて使用するということは可能かと思えます。

多田委員：前にイーハトーブ館で、賢治記念館が主催だったか分からないんですけど、宮沢賢治さんとジャズの関わりとかあってというのがあって、ここでジャズピアノを弾いた人がいたので、結構いっぱい人が来たんです。そういうこともちょっと思い出したりして、話をしました。

瀬川委員：今の多田さんのお話に関連してですけれども、サロンというんですか、コーヒーが飲めるところ。賢治花巻市民の会のメンバーの方が前はちょこちょこ行って、ちょっと賢治さんに会いに来たというような雰囲気、あそこで話をしてもい

いですし、そういう宮沢賢治を感じる場としてコーヒーを飲んでも帰ってもいいです。最近は入りづらくなったというわけではないんでしょうけれども、なかなか利用しなくなってしまったとういうか、その雰囲気なのかいろいろ理由はあるんでしょうけれども、できればそういう解放された場所、入館料をとって見る場所ではあるんですけども、そこはまた別にちょっと解放された雰囲気というものがあった、またちょっと雰囲気を感じるようになればいいなと前から聞いていたんですけども、そのへんはどうなのでしょう、今のピアノとか音楽とかを含めて。

清水館長：サロンコーナーは今、コロナのためにイス、テーブルを半分以下にして、密を回避するように対応しているので、どうしても今までどおりの空間ではなくなっている、ご利用される方には不自由をおかけしているのかなと思います。

小原委員：ちょっと提案ですけど、賢治記念館の中のサロンという形で、特にカフェの名前はついていないですよ。今、花巻市内に喫茶店だけで5軒もできたんだそうです。ということは、市民が求めているのか、私たちのような年寄が、暇になったものに行くところを。鳥谷崎神社の前にできた15席ぐらいでコーヒーを出す店に行っただけですけど、盛岡からも訪ねてきたり、結構混んでいるんです。11時半から開くんですけど、12時にはもう完売という形で。鳥谷崎神社は高台で見晴らしがいいんですけど、それに比べたら賢治記念館の方がずっと見晴らしはいいのね、賢治サロンが。名前をつけたらどうなのかな、サロンに。ただサロンじゃなくて、賢治と過ごす時間とか。

堀合委員：喫茶室は賢治記念館とは別のものですよね。

清水館長：喫茶コーナーは場所を賢治記念会さんの方にお貸しして、賢治記念会さんが営業しているところなので、直接、市が営業しているわけではありません。記念会さんの方へ、どうですかというお話することはできます。

中島会長：ご提案を検討していただければと思います。

瀬川委員：今の話なんですけど、あのスペースはフリーで入ってちょっと寛げるということをあまり宣伝していなかったと思うんですね。多分、知らない人の方が割と多いと思うんです。入館料を払わなければあそこに入れないうような気がしている人が多いと思うんです。だけど、そこは賢治記念会さんの方の管轄で、出入り自由でコーヒーも飲めるということをもうちょっと宣伝してもらえれば、原稿もあるのであればついで見えていくかということで、入館していく人も増える、相乗効果もあるんじゃないかなという気がします。

中島会長：これも難しい話ですね。賢治記念館ですので、あくまでもあそこは。前もそういう議論があったような記憶がありますが、一つのサービスであって、主ではないなという理由もありました、それも踏まえて。

この部分は閉めてよろしいですか。それでは、令和4年度事業計画については、原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

中島会長：はい、ありがとうございます。

その他は、事務局としては何かございますか。

佐々木副館長：事務局としては特にございません。

中島会長：それでは折角ですので、先ほど私申し上げましたとおり、時間の関係もあるのですが、簡単にそれぞれの団体の活動計画とか、そういう状況をお話しいただきたいと思います。瀬川さんから花巻市民の会についてお願いします。

瀬川委員：宮沢賢治花巻市民の会では、月に1回、第三水曜日に、前はこのイーハトーブ館で集まっていたんですが、コロナ以降どこも規制が入ったので、今はまなび学

園の方で第三水曜日に集まっているいろいろな情報交換をしたり、今は前年度からの引き続きなんですけれども、宮沢賢治の短歌を輪読しながら、これはどういうことなんだと、意外に賢治さんの学生時代からのものがあるって、背景を知ると興味深かったりしますので、そこからいろいろ話を膨らませながら、輪読したりしています。あとは、同じ市民の会の人たちが賢治カフェというものを上町の賢治の広場で月に1回ありまして、ここでは朗読会をしたりとか、あとはちょっとしたテーマに基づいて講演、講義をしたりしております。今後の予定としては、今月になりますけれども、フィールドワークということで種山ヶ原から水沢の緯度観測所、それから六原に賢治の足跡を追って、そういうことも予定しております。今のところはそんな感じです。

中島会長：はい、ありがとうございます。次に、早池峰賢治の会の高橋さん、お願いします。

高橋委員：私も修学旅行のことについて質問しようと思っていたら、瀬川さんに聞きたいことを聞いてもらいました。早池峰賢治の会ということですので、どうしても早池峰山の麓で花巻市とは離れているんですが、早池峰山にゆかりの賢治の童話とかの原点というか、そういうふうなものが早池峰山にいっぱいあるというふうに思っています。なので、修学旅行にはちょっと遠いんですが、やはり早池峰山に関連したということも加えていただければなと思っていました。遠いんですけども、ありますよというふうな紹介をしていただければなと思ってます。それから、堀合さんのお話があったんですが、大迫に早池峰と賢治の展示館という施設がありまして、最近はちょっと出番がなくて出ていないんですけど、浅沼利一郎さんが早池峰山にボランティアで案内しているときに、私が代わりにボランティアで早池峰と賢治の展示館の説明をしていたことがあるんですが、やはり私もふらっと現れて、見学者の顔色を見ながら説明は度々して、すっといなくなるというようなことやっていたんですが、喜んで大変感動したという話をいただきまして、よかったなという気持ちでおります。ただ、見学者によってはうるさいなと思う人もいるので、そのへんの見極めがすごく難しいというか。でも、めげないで、うるさいと思われても、展示物を見て理解するよりも、人の話を聞いて、耳から入った方が感動も大きいようで、話をするというのは非常に大切なことではないかなというふうに思っております。それから、どうしても賢治の会の行事は、浅沼利一郎さんに全部頼りっきりなんですけど、浅沼さんも高齢になりましたので、どうしても山登りがきつくなってきたと最近聞いてまして、ちょっとそのへんのボランティアが浅沼さん以外になかなか見つからなくて、ちょっと不安はあるんですが、やはり植物とか、ウスユキソウの案内とかというのは、やはり浅沼さんが主体となるというふうに聞いてますので、活動というのはやはり早池峰山中心になってしまいます。以上です。

中島会長：はい、ありがとうございます。次に、石鳥谷賢治の会の熊谷さんの方からお願いします。

熊谷委員：石鳥谷賢治の会の活動としては、三つの祭をやっております。一つは賢治葛丸祭、それから賢治やまなし祭、賢治三月祭、この祭を中心にして活動を展開しています。今度、8月10日ですが、賢治やまなし祭ということで準備しております。その場所は、賢治の会の会員の人がやまなしの苗を育て植えたやまなし園でございまして、そこに集まって賢治のことについていろいろ活動を進めるということにしております。それから、賢治作品の朗読会、輪読会ということで、2ヶ月に1回、会員の有志の方に集まってもらってやるということにしております。それ以外にも活動の中身は多少ありますけれども、主なものは今お話ししたとおりで

ありますが、問題なのは最近、石鳥谷賢治の会の会員がなかなか増えない、むしろ減ってくるという問題があります。それから、段々高齢化してきているということが、これからの石鳥谷賢治の会の活動の中では大きな課題ということですね。以上です。

中島会長：いずれも同じというような状況を抱えていると思います。それでは、東和の小原さん、お願いします。

小原委員：私どもでは、毎月1回の例会です。コロナでしたけれども、何とか広いスペースで休むことなくずっと例会を続けてきました。大体年1回の講演会、このコロナになってからは公に公表しないで、本当に会員の何人かをおよびしての講演会を大体6月に。会報を2年に1回、毘沙門という会報を出しております。因みに、大体半分ぐらいはどこかの会議室を借りて賢治作品を読んで、先月はちょうど「ツェねずみ」をみんなで読みました。そうしたら、ちょうど賢治記念館の特別展のポスターも来ていますから、ちょっと会員にも宣伝いたしました。それから、先ほど申しましたけれども、大体年に1回、賢治のゆかりの地を巡るというもので、今月の20日に盛岡を巡ることにしております。ときには大迫にもお邪魔しましたし、それから人首、「風の又三郎」のもしかしたら舞台ではないかという種山ヶ原の方も行ったたり、それから石鳥谷と交流会も持ちました。石鳥谷の方たちに来てもらって、コロナの前でしたけれど。いつも私どもで思っているのは、4つの会がありますね、花巻の市民の会、大迫、石鳥谷、そして東和町、一緒に連合して何かやったらいいんじゃないかなと常にちょっと思っているんですけども、そう思っていた矢先にコロナでしたので、ちょっとそこがまとまっておりませんが、ぜひ、4つの会で各会員が集まって交流会をするのを実現させたいなと今、思っているところです。以上です。

中島会長：4人お揃いですので、あとで相談したらどうですか。交流を実現して欲しいなと思います。ユネスコ協会の堀合さん、お願いいたします。

堀合委員：ユネスコと賢治がどう関わるかということだと思うんですが、花巻ユネスコ協会というのは、賢治さんの教え子の照井謹二郎という幼稚園をいくつか経営している方が、賢治の精神とユネスコの精神、賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは」という言葉とユネスコの「心の中に平和の砦を築こう」という精神が一致するんじゃないかということで、花巻にユネスコ協会をつくったというふうに聞いております。56年になります。それで、どういった活動をしているかといいますと、先ず8月15日、平和の鐘を市役所の時鐘で撞いておりますし、あとは「3・11の鐘」を震災後ずっと市内3か所で鐘を撞いております。岩手日々さんにも周知していただいて、一般の方にも参加していただいております。それから、どちらかといえば、ユネスコというとおリエデュケーションとサイエンスとカルチャーということで、教育、科学、文化を通じて世界の平和をとということですので、小中学校につきましては書き損じハガキを協力を呼び掛けて、今年もお金に換算しますと10万円前後の額が集まりまして、日本ユネスコ協会に寄付しております。そのお金がどう使われるかと言いますと、世界寺子屋運動の一環ということで、貧しい国に学校を建設するという、毎年何校か学校を造っております。あとは、高校生につきましては、国際理解講演会の援助をしておりましたが、ここ2年ぐらいは中止しております。実は2年前も企画しましたが、講師の方がお医者さんで、青森でコロナが流行していて、とても高校生の前に立てる状態じゃないということで、急きょ中止しております。今年もやっておりますが、落ち着きましたらまた高校生に国際理解の講演会を後押ししたいなと思っております。それから、早池峰神楽がユネス

コの無形文化遺産ということで、毎年1回、鑑賞会をして、何人か集って大迫に行って鑑賞しております。先ほど来、皆さんの話題になりました読書会、ユネスコ協会もユネスコティータイムというお茶タイムということですか、イベントカレンダーにも載せていただいておりますが、年間5回、一つ2冊の本について感想を自由に語り合うという会ですけれども、1冊は必ず賢治作品を入れようということにしております。それから、役員会は毎月1回開催して、事業の具体的なことを話し合っております。会報も2回発行しまして、市内の小中高、それから岩手は大変ユネスコ協会が多いところで、20くらいは各市町村にユネスコ協会がありますので、情報交換しながら、いろんな事業を企画しております。

中島会長：ありがとうございます。続きまして、多田さん、お願いします。

多田委員：私は地元ということで、矢沢地域振興会の方から出席をさせていただいております。すぐそばに住んでおります。ヤマユリなんですけど、ちょっとそばの道路を通ってみたら、朝見たときは蕾だったのが夕方は咲いていました。これからヤマユリがきれいな時期だなと思っております。賢治記念館にお客さんが来ていただけることを願っております。

中島会長：私も矢沢地域振興会は会長をやっているんですが、矢沢でも賢治記念館に来たことがないという人があるんです。いろんな講座、高齢者講座とか、講座には賢治さんをテーマに、この前は胡四王神社の建築ということについて、その中で賢治さんのことにも触れて、折に触れてそういう講座をやっています。

もう一つ持っているのが芸術協会ですが、非常に賢治さんにゆかりの部分が多い。3月には金星少年少女オーケストラ、命名が賢治さんゆかりで、合唱、演目、そういう賢治さんの俳句であったり短歌であったり、そういう部分で市民レベルで知ろうと、よその人に負けてはだめだというわけではないですが、そういう認識を深めるような活動を推進していきたいなと思います。

そういうことでその他は終わりますので、事務局にお返ししたいと思います。

佐々木副館長：中島会長、ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして宮沢賢治記念館運営審議会を閉会いたします。委員の皆様、ありがとうございました。